

本書の使い方

本書「動画×書籍で学ぶ解剖学・生理学 7日間で総復習できる本」は、皆さんが在学中に覚えておかなければいけない解剖学・生理学のポイントを、7日間に区分した構成になっています。以下の順番で本書を活用し、学習を進めていきましょう。

①各章の冒頭に「○日目に学ぶこと」という要点をまとめたページがあります。この内容を一読し、全体像をざっくりと把握しましょう。



②各項目のタイトルや図、太字になっている部分を見て、何を学ぶページなのかを理解しましょう。



③そのうえで本文を読みはじめます。ネット環境が整っていれば、動画も同時に視聴しましょう（動画の視聴方法はp.5をご覧ください）。



④理解できなかった項目があれば動画をくり返して再生し、理解を深めていきましょう。

1日目
循環器

1日目に学ぶこと

① 心臓
② 脈拍
③ 血液循環
④ 骨髄
⑤ 神経系
⑥ 気管支肺
⑦ 血液
⑧ 脳循環
⑨ 血液循環と化膿性炎症
⑩ 血液循環と代謝性疾患
⑪ リンパ系
⑫ 骨頭
⑬ 免疫
⑭ 心不全

4 刺激伝導系

解剖学

① 心臓
② 刺激伝導系
③ 心電図
④ 心不全

心臓はもともと筋肉で構成されています。筋肉を取ると心臓を手で持つことができる。これを心臓の筋肉といいます。これは骨髄筋膜よりもむしろ他の内因性の筋肉で構成されている。

⑤ 運動筋肉（骨格筋）
⑥ 心臓筋肉（心筋）
⑦ 心臓筋肉（心室筋）

心臓筋肉（心室筋）は心臓の心筋細胞の集合で、心筋細胞は心筋細胞と心筋細胞の間に接続しているため、心筋細胞は心筋細胞と接続している。

⑧ 肺葉筋肉（肺葉筋）：心臓の心筋細胞の集合で、心筋細胞と心筋細胞の間に接続している。

⑨ リンパ管：心臓の心筋細胞の集合で、心筋細胞と心筋細胞の間に接続している。

⑩ 心臓筋肉（心筋）：心臓の心筋細胞の集合で、心筋細胞と心筋細胞の間に接続している。

⑪ 心臓筋肉（心室筋）：心臓の心筋細胞の集合で、心筋細胞と心筋細胞の間に接続している。

⑫ ブルボン筋肉：刺激伝導系の筋肉なので、左右それぞれの心室全体に位置を有する。

生理学

⑬ 心電図
⑭ 心臓筋肉の筋収縮（心筋と心室筋）

心電図は心臓筋肉の筋収縮（心筋と心室筋）を示す電気的活動を記録した波形である。心筋と心室筋の筋収縮の時間差は約0.1秒である。